

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 岡山市立京山中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒700-0087
岡山県岡山市北区津島京町1-7-1

E-mail : kyoyamac7@city-okayama.ed.jp

Website : www.city-okayama.ed.jp/~kyoyamac

児童生徒数：男子 451名 女子 423名 合計 874名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

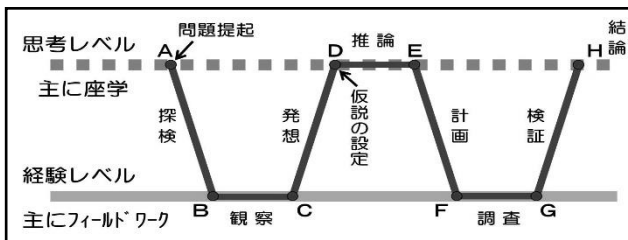
- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校は、「自立と創造へ向かう生徒の育成 ―挑戦・共生・豊かな心―」を学校教育目標に掲げ、「学ぶ意欲をもち、自らのもてる力を最大限発揮しようとする生徒」の育成などを目指している。平成24年度にはユネスコスクールに加盟をし、校外との連携を図るようしている。「環境」「平和」「キャリア教育」などの教育活動を Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育、以下ESD)の視点で捉え直し、校内外の活動に取り組んだ。校内活動では、総合的な学習の時間(以下、総合の時間)を中心にW型問題解決モデル型の活動を推進し、総合文化発表会(以下、SKF)で発表を行った。校外活動では、京山フィールド・ワーク(第1学年)、広島研修(第2学年)、修学旅行(第3学年)などを通して、ESDが目指す能力の育成を行った。また、ESDの考え方を教職員に浸透させる一環として、夏期休業中には、地域の方々と京山学区のフィールドワークを行うなどをした。

1 W型探究活動について



「W型探究活動」とは、「自ら課題を設定し、その課題の解決のために情報を収集し、整理・分析した結果を、まとめ・表現することで、新たな課題を見つける。そして、再びその課題について探究していく」という過程を繰り返しながら、より質の高い課題解決を目指す教育活動のことである。

生徒には、2年生と3年生のSKFでは、生徒自らが身近な諸問題(地域のゴミ問題など)や地球レベルの諸問題(紛争・異常気象など)をテーマに選び、それに沿った文献調査をはじめ、それだけでは解決できない疑問点などを地域の専門家にインタビューしたり、実際に現場に出掛けたりして解決していく。そして、その活動の過程と考察の結果をSKFの当日に発表を行った。

(1)3年生の主な取組について(岡山子どもESDフォーラムでの発表)

子どもESDフォーラム

小中高生が実践発表

国際交流センター

岡山市内の小中高生がESD(持続可能な開発のための教育)の取組みを紹介する「岡山子どもESDフォーラム」(市教委主催)が28日、岡山国際交流センター(北区奉

津島京町、後楽館高校(同南方)がそれぞれ実践内容を発表。アマモの再生活動に取り組み、小中は、外部講師を招いて海洋調査や保全活動の話を聞いて、学習を深めていくことを説明した。

30人が事例発表など、後楽館高は防災な「通じて児童生徒の活」を通過して児童生徒の活、小中は、みを報告した。

『山陽新聞』2016年10月30日より

3年生は、各自が決めたテーマごとに分かれ調べ学習を行い、SKFで発表した。その後、10月28日(金)に国際交流センターにて開催された岡山子どもESDフォーラムに岡山市ユネスコスクール推進校の代表校と学校代表の3年生が参加し、「ポイ捨てをしない

させない・増やさない」というテーマで実践事例の発表を行った。

(2) 1年生の主な取組について



3年間の探究学習の入口として、1年生では、本校学区内の地域調査を行った。生徒は、それぞれ興味のあるテーマに沿ってテーマを選んだ【問題提起】。次に、そのテーマに沿った学区内外の施設に生徒が自ら訪問のアポイントメントをとり、インタビューを行った【観察・調査】。こうして調べたことについてグループごとに新聞形式で模造紙にまとめ【検証】、総合的な学習の時間において発表活動を行った【結論】。発表では、グループ内で役割を決め、全体の司会・進行なども生徒が主体となって行った。

2 校内活動での主な取組 (2年生)

学区内にある岡山大学に在学する留学生を招いての交流会 (English Day) を行った。生徒は、国調べなどを事前に行い、留学生に発表を行った。また、給食を一緒に食べるなどの交流体験をした。

【生徒の感想】

- ・ 留学生が話している英語の全部が分からなかったけれど、ジェスチャーなどでなんとなく理解でき、楽しい会話ができた。日本の常識と他国の常識は全く違うのだと感じた。日本人のマナーは素晴らしいと思った。
- ・ 話せなくても話そうと努力すること。言葉の壁を越えて心で通じ合うことの大切さ。この二つを学んだ。

3 地域と教職員の交流

京山地区では、岡山市京山地区 ESD 推進協議会会長の池田満之氏を中心に、2005(平成 17)年から始まった「国連・持続可能な開発のための教育の 10 年」に賛同し、岡山市立京山公民館を拠点に、学校と地域が連携し、京山地区の子どもから大人までが共に ESD 活動に取り組んでいる。その一環として、本校では地

域のボランティア・ガイドの協力を得た教職員研修を行った。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()